

第3回鹿児島市総合教育会議 議事録

□開催年月日 平成28年2月9日(火) 13時30分開会
14時30分閉会

□開催の場所 鹿児島市役所 本館2階特別会議室

□出席者

市長	森 博幸
教育委員長	窪菌 修
教育長	石踊 政昭
教育委員	津曲 貞利
教育委員	高島 まり子
教育委員	桃木野 聡
(関係職員)	
企画財政局長	久保 英司
企画部長	鉾之原 誠
教委・管理部長	星野 泰啓
教委・教育部長	藤田 芳昭
(事務局)	
企画部参事(政策企画課長)	池田 哲也
政策企画課主幹	高橋 卓也
政策企画課主任	迫 孝之
教委・総務課長	橋口 訓彦
教委・総務課主幹	土屋 幹雄
教委・総務課主査	久家 加奈子
学校教育課長	白濱 富男
少年自然の家所長	藤山 洋一

□次第

1. 開会
2. 議題
大綱(案)について
3. その他
4. 閉会

□会議要旨

1. 開会

(政策企画課主幹)

ただいまから、平成27年度第3回鹿児島市総合教育会議を開会いたします。
会の進行を本会議の招集者であります森市長にお願いいたします。

(森市長)

それでは、私の方で議事の進行を行います。ご協力をお願いいたします。

2. 議題

大綱(案)の内容について

(森市長)

早速議題に入ります。

「大綱(案)について」を議題とし、事務局の説明をお願いします。

(政策企画課長)

資料1をご覧ください。「1. 第2回総合教育会議における決定事項」のとおり、前回10月8日の会議では3点について確認・決定をいただいたところです。これにつきまして資料2で説明します。

資料2をご覧ください。教育等に関する総合的な施策の目標や方針を定める「大綱」については、青の点線の枠内となります。

前回の会議で確認いただいた3点の1点目になりますが、その枠の上に「大綱(案)」のところの括弧にありますとおり、大綱の対象期間は、本市の地方創生総合戦略等を踏まえ、平成28～31年度の4年間とすること。

2点目ですが、ピンクの点線の枠内は「教育振興基本計画」になりますが、その中のグレーの網掛け、左から「目指すべき教育の姿」、「教育の取組における視点」、「教育施策の方向性」を、大綱では青色の網掛けのとおり、それぞれ「基本目標」、「基本目標実現への考え方」、「基本方針」とし、そして「基本方針」一番下の赤の枠線の「(6) 生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育む」を追加すること。

3点目ですが、本年度改定中の教育振興基本計画には、大綱の基本方針(6)に関する取組について、(1)～(5)の「具体的施策」の中で、その観点からさらに精査した上で、必要に応じ、記述を加えること。

以上の3点が確認されたところでございます。

次に、これを踏まえまして、作成しました大綱(案)についてご説明します。

資料1の「2. 大綱(案)の構成と内容について」に構成等を表記しておりますが、説

明は資料3の「鹿児島市教育大綱（案）」でさせていただきます。

1ページをお願いします。「はじめに」のところでは、教育に関する「大綱」策定の位置づけについて、また最後の段落は、この総合教育会議での協議を経て策定したことについて、記載しています。

同ページ下の「策定の考え方」は、本市の大綱が、本年度改定の教育振興基本計画をベースとし、昨年12月に策定した「鹿児島市地方創生総合戦略」の重点戦略の1つに掲げた「大学との連携強化とふるさと教育の推進」の考え方を基本方針に加えた旨を説明しております。

2ページをご覧ください。「対象期間」については、平成28年度から31年度までの4年間としたことを説明しております。

3ページをご覧ください。これは大綱の体系図を示したもので、上から順に、「基本目標」、基本目標の実現に向けて施策の推進の考え方を示した「基本目標実現への考え方」、そしてそれを踏まえた「基本方針」といった全体像をここで示しております。

4ページ上は「基本目標」、それから4ページ下から5ページは「基本目標実現への考え方」、6ページから8ページ上の「基本方針」の(5)までは、大綱のベースとなっております改定中の教育振興基本計画と表現を合わせております。

また、8ページ下、「基本方針」に追加した「(6)生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育む」については、昨年12月策定の「地方創生総合戦略」の重点戦略の1つに掲げた考え方を盛り込んでおります。

ここは、追加になりますので読み上げます。

「小学校から高等学校までの各ステージにおいて、世界文化遺産や明治維新をはじめとする郷土の歴史や偉人等を学ぶことを通じた郷土の理解を深める取組や体験活動、地元産業や企業を知る職場体験活動等を通じたキャリア教育、郷土を意識し、学ぶことにつながる機会となる国内外との交流や地域の様々な人々との交流、まちづくりについて意見交換を行う取組等を進めます。

また、本市と協定を締結している大学と、それぞれの特色を生かした連携事業をはじめ、市内の6つの大学と連携しながら、歴史、伝統や自然という豊富なフィールドの下で、学生の主体的なまちづくりへの参画や地域を学ぶ活動を進めます。」

としております。

資料1に戻っていただきまして、「3. 教育振興基本計画について」ですが、第2回総合教育会議で大綱の「基本方針(6)」を追加することに対して、教育振興基本計画の「具体

的施策」の内容に、必要に応じて、その観点からの記述を加えるということでしたので、これについて教育委員会総務課から説明いたします。

(教委総務課長)

大綱の基本方針「(6) 生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育む」に関連する教育振興基本計画での施策についてご説明いたします。

資料2を再度ご覧ください。大綱の基本方針(6)に関連する計画中の施策につきましては、表の右側、「具体的施策」中、下線を引いた部分がこれにあたります。

次にこれらの具体的な記述について、資料4で説明させていただきます。

資料4は教育振興基本計画の抜粋であり、1ページ目の一番下の方、朱書きで示した部分がありますが、関連部分につきましては、このように朱書きで記載しております。

1ページの上の方に戻っていただきまして、教育施策の方向性「(1) 道徳心や社会性を養い、心身ともにたくましい子どもを育成する」、これは大綱では基本方針になりますが、この中の「⑧青少年教育と体験活動の充実」では、中ほどの【これからの施策の方向性】として、朱書きの「広い視野を持ち、我が国や郷土の文化と外国の異なる文化とをともに理解し、世界の様々な分野で活躍できる青少年を育成する」ことなどを記載しており、次の2ページの「主な取組」では、一番下に記載している少年自然の家の「かごしま創志塾」による人材育成の取組を進めることとしております。

次に、3ページの「(2)『確かな学力』を持ち、個性あふれる子どもを育成する」の「③進路指導・キャリア教育の充実」では、【これからの施策の方向性】として、キャリア教育の充実や地域人材、企業等の協力を得ながらの体験活動の推奨を行うこととしております。

また、その下【主な取組】では、系統的なキャリア教育の実践に努めるとともに、地元企業等での職場体験学習などの体験活動を支援することとしております。

次に、4ページをご覧ください。「⑧郷土教育の充実」では、【これからの施策の方向性】として、郷土かごしまの人的・物的資源を活用しながら、体験的な活動を通じた郷土教育の取組の推進を図るとともに、各学校において、校区の伝統・文化・歴史等を踏まえた郷土教育全体計画を作成し、特色ある教育活動を推進することとしております。

また、【主な取組】では、各学校の先輩や各界で活躍する郷土出身者を講師として招き、郷土の歴史や職業に関する授業、講演会等の開催を推進するほか、郷土の偉人に関するマンガ教材を作成するなどいたします。

次に、5ページをご覧ください。「⑨国際理解教育の推進」では、【これからの施策の方向性】として、外国や日本、鹿児島県の歴史や文化、伝統等に関心を持ち、それらを理解しようとする態度を養います。

また、【主な取組】では、鹿児島県の伝統・文化・歴史等を題材とした英語でのスピーチコンテストを実施するなど、郷土への関心や理解を深めることとしております。

次に、6ページをご覧ください。「(4) 家庭や地域の教育力を高め、社会全体で人づくりを進める」の「②地域で学校を支援する体制の確立」でございますが、【これからの施策の方向性】で市民の方々のこれまでのご経験や地域の歴史、文化などの知識を「学校支援ボランティア」として、地域の学校支援に生かしていただくことなど記載してございます。

7ページをご覧ください。「(5) スポーツや文化の振興を図るとともに、だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくりに努める」ですが、「④文化財の保護と活用」では、【これからの施策の方向性】として、「文化財を学習や観光などに活用できる場の提供」や、「遺跡の発掘の成果を学習や体験活動の場として提供する」こと、「郷土芸能を後世まで正しく伝承し、郷土愛を高める」ことなどを記載しております。

また、8ページになりますが、【主な取組】では、「史跡めぐりガイドブック」などを生涯学習や学校教育の場で活用できるようにするほか、郷土芸能団体の活動を支援し、その保存を図ることを記載しており、これらの取組を通して、郷土への関心や理解を深めることとしております。

以上でございます。

(政策企画課長)

なお、配布しております資料の中に、参考資料として、大綱の基本方針(6)に関連する主な施策について、教育委員会の分は1～2ページ、市長事務局の分は3ページにまとめております。

最後に、資料1に戻っていただきまして、「4. 今後のスケジュール」ですが、大綱につきましては、2月15日に教育委員会会議で教育振興基本計画の改定の議決を受けて、大綱の表現を確定させ、同日の市長決裁を以て策定としたいと考えております。

その後、議会への報告、ホームページでの公開を行う予定です。

「大綱(案)について」の説明は以上です。

(森市長)

ただいま事務局から大綱(案)と教育振興基本計画における大綱の基本方針(6)に関

連する部分の説明がありました。

前回の総合教育会議の中で、皆様からいただいたご指摘を勘案して、案として記載してあります。

それでは、ただいまの説明について、何かご意見やご質問はありませんか。大綱（案）、教育振興基本計画のどちらについてでも結構です。

（窪菌委員長）

ただいま事務局から説明がありましたが、非常に良いと思います。特に市が追加した大綱の基本方針（6）に追加された「生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育む」、これは非常に大事だと思います。いろんなことが政策として出ていますが、相撲に例えれば「心技体」、教育でいえば「知徳体」を大事にするのは当たり前であって、もう一つ大事なのは地域の伝統・文化を理解することだと思います。鹿児島県でも市でも、伝統・文化・歴史を若い人は学ばなければなりません。

先日、伊敷小学校の土曜授業の視察があり、伊敷在住の年配の方々が、伊敷の歴史や遺物、伊敷の偉人で桂庵玄樹とかオリンピックで2回優勝した鶴田義行ですとか、甲突川の上流では石が採れるため、優秀な石工がいたことなどを、小学校3年生に説明しておりましたが、そういうことが大事であると思いました。大学生と話をしても、多くが日本、世界、郷土の歴史をほとんど知りません。歴史をきちんと教えることは非常に大事であると思います。

ここからは私的な提案ですが、土曜授業というのは今更と思っていましたが、先日視察した伊敷小学校の取組は、土曜授業のあり方の一つとして非常に良いのではないかと思います。もう一つ、是非森市長にお願いしたいのは、教育というものは現場に任せるのではなくて、幸い教育委員会制度が新しくなったわけですから、いわゆる市長の理想とするような教育というものを教育委員会に吹き込むというのも大事だと思います。押しつけではなくて、きちんとした理念に基づいて、若い人を導くというのは大事だと思います。

小学生以下に対してはしつけが大事で、古いことを言うようですけれども両親に対する「孝」など、ある程度導いてあげることが必要で、今の世の中、あまりにも個人の権利が主張されすぎ、また守られすぎて、きちんとしたものがないような気がします。

土曜授業も学校現場に丸投げではなくて、市としてきちんとしたものを学校側に要請することも必要だと思います。

（森市長）

窪菌委員長がおっしゃられた市として教育行政に携わることは、予算関係や総合計画という面では既にありましたが、教育のあり方などは、教育委員会が決定をし、またその方針を全小中高校に伝えるというものでした。今回、総合教育会議ができたことの意義は、やはり首長もそういうことに参画して、教育委員とも一緒になって、教育について意見を

述べるという点ですので、窪菌委員長がおっしゃったように、これからも積極的に私どもも取り組む必要があると思います。

大綱の基本方針（６）はこちらでよろしいでしょうか。

また、教育振興基本計画の中でもこのことを踏まえて、「具体的施策」の中に取り込んでおりますので、教育振興基本計画は教育委員会で決定していただき、それを踏まえて大綱については、私の方で最終的に決定をさせていただきます。

他にありませんか。

（高島委員）

確認ですが、資料２の「具体的施策」に下線が引いてあるところがあり、これは教育振興基本計画の「具体的施策」の中で、大綱の基本方針（６）に関連するものということなので、これらも（６）に挙がっている国内外交流や大学との連携とともに、ここに取り込まれる形になるという理解でよろしいでしょうか。

（教委総務課長）

そのとおりでございます。

（高島委員）

わかりました。

（森市長）

他にありませんか。

（津曲委員）

窪菌委員長が代表しておっしゃっていただきましたので、私が口を挟むことではありませんが、今回の大綱の中で、基本方針の（１）～（５）はいずれも重要な方向性なのですが、（６）が入ったことによって、再度「地域」というフィルターで（１）～（５）を見直してみると、また明確に出てくるものがあるような気がしております、そういう点でエッジが効いたなというように考えています。

郷土愛を育むという視点で、道徳心や社会性というものを養うということを考えると、それは地域のコミュニティの根源であろうと思いますし、また同じようなフィルターで「確かな学力」というものを見れば、それからの地域振興の確かな力になるでしょうし、（３）（４）（５）というものも紐解いてみますと、地域での学校教育とは何ぞや、地域での学力とは何ぞや、地域での家庭の果たす役割とは何ぞや、地域におけるスポーツの力とは何ぞやと全部問い直してくれるような気がして、私は非常に（６）が入ったことで、本市らしい、あるいは本市の基本方針として進むべき方向が明確になったのではないかと感じてお

ります。

それをこれからどのように展開していくかというのが非常に重要であると思いますが、これまでのように人口がどんどん増えていく時代ではなくなり、日本が大きくなることによって、結果的に鹿児島も大きくなるという時代が終わったということを考えると、鹿児島自体が隆起をしていくことを考えなければ、鹿児島の発展はないと思うわけです。そういった中で鹿児島市も地域活性化に取り組み、地域から世界に出て行こう、世界から地域に人を集めていこうという政策をしっかりと持っておりますので、やはり地域というものの立ち位置を明確にし、地域の中で育むべき力というのが、この基本方針に網羅されているのではないかと思います、大変力強く感じたところでございます。

(森市長)

ありがとうございます。他にご意見ございませんか。

(高島委員)

津曲委員がおっしゃった最後のところが、私も言いたいところでした。地域が大切というのは、最近かなり浸透して、高等教育の現場でも常に念頭にあるのですが、勢い「地域、地域」というとついつい内向きになってしまうリスクもあります。そのところで基本方針(2)の「⑨国際理解教育」の「国際交流教育の推進事業」、(6)の市長事務部局の「青少年の翼」や「姉妹友好都市等との交流」など、やはり自分たちの地域ということを考えたり、その発展を願っていろんな努力をしていく中で、外部との、国単位で見れば国外、県単位で見れば他の都道府県、そういった内外との交流によってさらに自分たちの自己意識も明確になってきますし、より発展も見込めるということで、内向きにならずに地域を大切にしつつ、外に向けて広げていったり、発信したりするということが大切だと思います。国文祭の「文化維新は黒潮に乗って」というフレーズは、鹿児島というのは明治維新当時本当に外に向けて開かれた一大拠点であったわけで、東京中心になった現在でもその歴史をもう一度思い出してみようよ、というメッセージを開会式で私は感じたところでした。そういう認識を持って、同時に外に開かれていくということをととても大切にしていきたいと思います。

(森市長)

ありがとうございます。他にご意見ございませんか。

ご意見なければ、大綱については、総合教育会議で首長と教育委員会が協議をし、首長が策定することとされておりますので、本日、確認いただいた本案を私が決定し、策定することといたします。よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

(森市長)

ありがとうございます。その方向で今後、事務を進めたいと思います。

3. その他

(森市長)

それでは、本日の議案はこの1件でしたが、「その他」として、何かご意見等がございましたら、お出しいただきたいと思います。

なければ、私の方からご提案したいと思います。

ふるさと教育の話が、先ほど大綱の基本方針(6)のところでも出ました。鹿児島市も地方創生に向けて、「鹿児島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を昨年末に策定いたしました。その重点戦略の1つに「大学との連携強化とふるさと教育の推進」を掲げております。この大綱にもその考え方を新たに盛り込み、皆さまからご賛同をいただきました。

これから総合戦略に基づいた様々な事業を展開していきたいと考えておりますが、ふるさと教育に関連する取組について、先ほどの参考資料にも主な事業の記載ありましたが、ご意見や新しいアイデアがありましたら、お出しいただきたいと思います。

私は先日、鹿児島大学で、その前は志學館大学で、大学生とのふれあいトークを実施し、若い方たちがまちづくりに大変関心を持っているということを感じました。鹿児島大学では、「ごみの減量化を何故するのか、そんなにごみが溜まっているのか」とか、「18歳選挙権になったのだから取組を強力に進めていくべきではないか」とか、ある程度成人した方々からは、あまり聞けないような意見などが出てきて、若い方々と話をするのはいい機会だと感じました。青少年の翼や姉妹友好都市との交流でも中高大生を派遣しますが、若い方々がホームステイなどをしていろんなことを学んで帰ってくると、行く前の激励式と帰ってきてからの報告会の、たった2週間くらいでだいぶ意識が変わるようです。小学校や中学校のときに、そういう教育をすることで、視野が全然違ってきます。

ふるさと教育について、今後、どういう視点で事業を進めていけばよいかと考えております。

石踊教育長はかごしま創志塾で講演されたと聞いておりますが、反応はいかがでしたか。

(石踊教育長)

久しぶりに中高生に話をしました。本日は少年自然の家所長も出席しておりますので、感想文でどのような意見があったかをご紹介します。

(少年自然の家所長)

今回、7泊8日と1泊2日の計10日間で実施いたしました。実施後の塾生の声を紹介してみたいと思います。

「かごしま創志塾の数々の体験を通して、それまでは考えなかった自身の夢や可能性が見つかった気がします」とか、「7泊8日のすべての出会いに感謝です。第1期生としての誇りをもって、未来の鹿児島、日本を担う人間になりたい」という力強い感想もありました。また、保護者のご意見としましては、「子どもの変容に夫婦ともに感動しました。仲間との出会い、講師の言葉、様々な体験が、こんなにも子どもの心に響き、動かしてくれたことに感謝です。引き続きこの事業は鹿児島市の事業として続けて欲しいです」という声をいただいております。

(森市長)

同じ中学校、高校の生徒ではなくて、全く違う学校から集まったわけですね。

違った環境の中で育った子が一堂に会して、いろんなことを学ぶということが一つの特徴なのですね。創志塾は新たに始まったのですが、青少年の翼もそうですが、各学校から集まってきて、仲間意識というか、連帯感が生まれ、本当に情操教育に良いのではないかと思います。

(石踊教育長)

創志塾は中高生24名ですが、男女比はどうでしたか。

(少年自然の家所長)

男子生徒が約2割となっています。

(石踊教育長)

青少年の翼等もそのような割合ですね。だからどうというわけではないでしょうが。

目から鱗というか、違う世界でもっと勉強しないといけないということを思った7泊8日だったのでしょ。

それぞれが意見発表しているのを聞いて、1週間くらいで、こんなに変わるのかと両親がびっくりされます。

しかし、それを何故学校教育でできないかと一方で思いますが、それは寝食を共にして、山形屋でのテーブルマナーとか、ALTと2泊3日の間、日本語を使わずに生活してみよとか、学校では体験できないような生活をしているからだと思います。

(森市長)

既定のカリキュラムではなくて、全く違った観点での学習ということですね。

(石踊教育長)

私の講義も学校で使っているテキストの授業ではなくて、イギリスに留学した体験談だとか、外に出るとこんなことがあるのだよということを話したりして、楽しい話だったという感想文を読ませていただきましたけれどもね。

男の子は部活をしているのかな。もっと男子生徒にも参加して欲しいと考えていますが。

(高島委員)

どうしてそんなに少ないのでしょうかね。

(石踊教育長)

男子生徒の応募が少ないのですよね。

(森市長)

個人的なことですが、全日空のCEOがいらっしゃって、彼は、高校1年生のときに交換留学生でドイツに行った体験が、自分の人生を変えたとおっしゃっていました。

(津曲委員)

CEOの方は鹿児島のご出身ですよ。

(森市長)

学校の中で受けられない授業というか、そういう機会を与えていただいたというのも感謝ですし、そういったことで自分が変わっていったというのも実感として覚えているとおっしゃられていました。

桃木野委員は若い時にアメリカに行かれたとお聞きしておりますが。

(桃木野委員)

私が行ったのは28歳から2年間でしたので、若いかどうかはわかりませんが、やはり10代の時に行けたらなと思いました。早く自分がやりたいこと、自分ができるとわかる場を与えてもらえれば、より違うと思います。本当に一人でも二人でも10代の時にアメリカでも欧州でもアフリカでも南米でも、やっぱり異文化の地に降り立つということで、先ほどのANAの方の話ではないですが、そういう人がどんどん出てくるのではないかと思います。

(森市長)

鹿児島国際大学もいろいろな留学生を受け入れていると思いますが、卒業されて帰国する際には、だいぶ違っていませんか。

(津曲委員)

そうですね。違ってないといけないと思います。

ちょっとこれは今日の議論とは違いますが、日本の大学は留学生に冷たいように見受けられます。日本の学生の就職には一生懸命ですが、留学生はいずれ帰国することもあって、あまり力を入れていません。それはこれからの地域活性化の時代にはよろしくないと思っております。留学生にちゃんと日本の文化を教えて、そしてできれば鹿児島企業の勤めさせてという努力を大学はしないといけないと思っています。よしんば帰国したとしても、鹿児島とのネットワークをしっかりと持ち続けられるようにすべきではないかと思うのですが、意外と日本の大学というのは、まず地域プログラムにはあまり力を入れない、日本のことは教えても、鹿児島のことを一生懸命教えるわけでもありません。留学生は教えない限り、興味を持ちませんから、大部分が日本語だけをマスターして帰国してしまったり、博士号等を取ってキャリアを積んで帰国してしまいます。今、鹿児島で留学生が就職するのは鹿児島銀行や城山観光ホテル等で、彼らは鹿児島と中国の橋渡しをしたりしています。留学生も鹿児島人だという意識をもって、地域に定着するようなプログラムを考えることが必要だと思います。今日の話とはちょっと違うかもしれませんが。

せっかく話ついでに、2つ言おうと思っていました。

これからは地域から世界へということを考えなければならぬと思います。海外に留学することも大切なのですが、地域教育をしっかりしてから海外に行かないと、日本や鹿児島が小さく見えてしまうというか、視野は広がっても鹿児島なんかじゃ仕事にならないということを目指すわけではなくて、もっと鹿児島はこうならなければならないということ学ぶために海外に出るという理解を伝えたいと思います。そのために鹿児島への愛着というのをきっちり作っていかないといけないと思います。地球儀の鹿児島を見ると「ちっぽけでこんな関係ないな」と思いますが、鹿児島からずっと上に昇って見下ろすと「自分がこれから鹿児島で仕事ができるフィールドは大きいな」と思うのですよね。地域と国際というのは、割と離れているように見えるけれど、私は一緒だと考えていまして、地域の勉強を一生懸命やってこそ国際的に活躍できる、地域にベースを持つ国際人ができてくるのだらうと思っています。鹿児島への愛着をきちっと育て、それから海外に出させてあげたいと考えております。

そういった意味では、資料4の1ページの一番下の「我が国や郷土の文化と外国の異なる文化をともに理解し」という言葉がかっこよくて、よくこんな表現にさせていただいたなと思っております。やはり別々ではないのですよね。地域と国際というのは関連しあって、ともに理解をする、同じフィールドで我が国や郷土の文化と外国の異なる文化ということのをともに理解することで、地域への愛着と世界を意識したパーソナリティが生まれるのかなと思っています。

もう一つ、英数国理社というのは「解答」を求めるけれども、ふるさと教育というのは「解決」を求めるものです。教室の中ではなかなか解決を求める授業というのはできないわけですね。ところが、環境とか人種差別とか社会保障だとか福祉とかというのは全部解答がなくて、解決しなければならないという気持ちの中でやらなければならないものです。解答を求めるというよりもどうやってこの問題を解決できるのだろうということを考える子どもたちを作るのは、ふるさと教育しかできないと思います。そういう面で、ふるさと教育を子どもたちにしっかりとやっていくというのは、すごく大事なことだと思います。

(森市長)

ありがとうございました。他にありませんか。

(高島委員)

最近、英語の教材で「Working in Japan」というのがあるのですが、日本人も含め、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパから来ている人が日本で働いている中での毎日を話題にしたものです。

その中にAPU (Asia Pacific University・立命館アジア太平洋大学) 出身で、大手のコンビニに勤めているベトナムの女性の話があります。父親は国際的なビジネスマン、姉がベトナムの外務省に勤めていて、幼いころから海外に目が向いていて、日本のAPUであれば英語と日本語が学べると考えて来日し、卒業後に大手コンビニに入社して1～2年で中間管理職になって、日本の素晴らしいおもてなしをベトナムに持って帰って広めたいとすごい使命感を持っています。私たちにとってはごく当たり前のことなのですが、例えば店頭でコーヒーをサーブする際に「熱いですからお気を付けてください」という一言をスマイルとともに添えるということが、ベトナムの人にとっては奇跡みたいなホスピタリティなのだそうです。一事が万事そういう感じで、日本の文化の中でホスピタリティを持って帰って、自分の国をもっと活性化させたいというすごい信念を持っています。異なる文化の人材を受け入れることで私たちも見えてくるものがあるのかなと思います。

それから、先ほどからの話の中で、異文化を知る、できるだけ若い10代くらいから外の空気を吸わせてあげるということは、とても大切だし、国内でも教育長のおっしゃった創志塾のように違う学校の生徒と寝食をともにするとか、異なるものと触れ合うということが、若い人たちにとってはすごく刺激になります。それによって思わぬ伸び方をすることがあると思いますので、とてもいい教育を鹿児島はしているのではないかと思います。

小学生とか中学生の話ではなくなりますが、先ほどの大綱の基本方針(6)のところ、大学との連携の話が出てきましたので、もう一つ付け足しますと、参考資料の3ページの

「2 大学との連携」に具体的な取組が挙がっており、今回世界文化遺産に認定されたかごしま近代化産業遺産の若手会の活動、選挙コンシェルジュ、学生会議などはどこの大学でも市から働きかけていただいて連携していると思います。鹿児島女子短期大学もすべて関わっているわけですが、学生に活動後の感想を聞いてみると、他の大学の学生といろいろ語り合う、例えば若手会だと自分たちで企画段階から作り上げていくので、本音で話が進むそうです。そういったところが、非常に勉強になると言っています。今まで自分たちの中だけでおとなしくやっていたのが、他の学生の話が聞ける、また男子学生の話も聞けるということのようです。学生会議などこういう機会をできるだけたくさん与えていただいて、市政に少しでも自分たちの意見なり要望なりが反映されるという手ごたえがあると、とても頑張れるのですね。それで、政策企画課にはお願いしたのですが、ひとつひとつのイベント等が終わった時に、その結果を是非可視化して欲しい、学生にとっても自分たちが語ったことが、こういった形で反映されているんだということがよく見えると、本当に手ごたえを感じて、ますます頑張れるということがありますので、それは当然今からなされると思いますが、まず一つあります。

それから、甲突川のところのお祭りですとか、ナポリ祭り等のボランティア活動を学生たちがやります。その時に学校と市とはいろんなやり取りを事前にします。学生たちもちろん事前にやり取りをするのですが、そのスタッフとの交流を終わった後に、今回こうだったので、次はこうしたらよいのではないかとか、こういった学びがあったとか、スタッフと学生の交流を深める努力を是非お願いしたいと思います。

また、こういったことをやっているということを発信して、スタッフと大学はお互いにわかりあっているかもしれませんが、もっと広く全体に発信をできたらいいのではないかと思います。市長の定例記者会見ほどこちんとした形でなくてもよいのですが、何らかのマスコミにおける大学生たちの発信という枠を取れないだろうかと夢を見ています。いろんな大学の学生たちがやっていることについて、これは県の対応かもしれませんが、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業、COC+がはじまって、鹿児島大学を中心に8つの高等教育機関が取り組んでいますが、そういったことも含めてマスコミを使った発信枠、もちろん個別には新聞社等いろんなところで取り上げていただくわけですが、ひとつひとつではなくて、全体でこういう流れで、今、鹿児島市は若者の声を取り込んで動いてますよというストーリー性のある発信が持続的にできたらありがたいと夢見ております。

COC+に関連して、産官学ということが頻繁に言われるわけですが、若者の地域への定着ということを考えてときに就職が課題になります。就職する先は産の分野で、官と学というのは例えばこういうテーブルについて語り合うということができのですが、産の方々とのやり取りということをもう少しできないだろうかと考えています。これは要望ということになりますが、もう少し就職も絡めて、地方創生についてどのようにお考えなのか、COC+の場以外でも、そういうお話ができればと思っています。

(森市長)

よろしいでしょうか。いろいろとご意見いただきました。皆様のご意見を踏まえながら、今後の取組を充実してまいりたいと思います。

この総合教育会議は、本年度は今回が最後となります。

総合教育会議はこれまで3回開催いたしました。教育委員の皆様と、大綱の策定を中心に教育行政について議論を深めていく中で、より一層双方の意思疎通が図られるとともに、出された意見を地方創生総合戦略に反映するなど、大変有意義な会議でございました。

今後も総合教育会議は毎年開催いたしますので、是非よろしく願いいたしたいと思っております。来年度以降も、本市の教育に関する様々なテーマで協議・調整を行いたいと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

以上で本日の私の議長としての役割を終わらせていただきます。

以後の進行を事務局に返します。

4. 閉会

(政策企画課主幹)

ご協議ありがとうございました。

以上をもちまして、第3回鹿児島市総合教育会議を閉会いたします。

【以上】